

県立新発田病院だより

第66号 2019年11月発行

新潟県立新発田病院

〒957-8588 新発田市本町1-2-8
TEL.0254-22-3121 FAX.0254-26-3874
<http://www.sbthp.jp/>

【当院の基本理念】

1. 県北の急性期高度医療を担い、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんに優しく安全で信頼される病院を目指します。
3. 保健福祉・医療機関と連携して地域の基幹病院としての役割を担います。
4. 教育・研修を積極的に行ない、医療の未来に貢献できる人材を育てます。

目次

- P 1. 巻頭言：災害対応訓練に思う
P 2. 病院トピックス：最期をどう迎えたいか
P 3. ひとりで悩まずご相談ください、ミニクイズ
P 4. 患者さんの声、患者さんの権利、編集後記

災害対応訓練に思う

看護部長 青木 洋子



ご挨拶が遅くなりましたが、今年4月に看護部長に着任いたしました青木と申します。新発田病院での勤務は初めてですがよろしくお願ひ致します。

今年度は地震や大型台風など様々な災害に見舞われました。そのような中、11月2日(土)、3日(日)、「東北ブロックDMAT参集訓練」が新潟県で実施されました。新発田病院は新潟県災害拠点・DMAT病院に指定されており東北各県からのDMATの参集場所となりました。

当院では、このタイミングに合わせて11月2日(土)に災害時対応訓練を実施しました。参加者は、医師をはじめ看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師等総勢80名以上に及びました。

9時10分に、新潟市沖でマグニチュード8.0の地震が発生したとの想定で訓練がスタートしました。訓練は、災害対策本部の運営と診療部門でのトリアージ及び診療を連動させての訓練です。対策本部では、随時情報が追加される中での対応に緊迫感と緊張感が走っていました。トリアージ班では、搬送されたけが人の状況を医師が少ない情報から迅速に判断してのトリアージが行われました。訓練では、近隣の看護

学生50人にけが人役で参加いただきました。しかし、実際の災害では何倍ものけが人の搬送が予測されます。訓練の途中には、本部にトリアージ班から「医師が不足しているので応援が欲しい」との要請が入るなど、本部とトリアージ班とのやり取りは臨場感がありました。実際職員が登院できないことも考えられ、そのような状況での対応について考えさせられました。

私達には、入院されている患者さんの安全を守る責任もあります。患者さんの状況や病院内の設備やライフラインの状況等についての情報収集の方法についても再考する機会となりました。

9月9日(月)、10月12日(土)には、超大型台風の襲来により広範囲の都県で河川の氾濫や土砂災害等による甚大な被害が発生したところです。災害はいつどこで起こるかわかりません。災害拠点病院としての役割を担う当院では、迅速に対応できることが求められます。当日参加した職員からは日頃からの訓練が重要だとの声相次ぎ、定期的な訓練の重要性を痛感した1日となりました。



最期をどう迎えたいか

救急科医師 田嶋淳哉



みなさんは家族と「いざ」というときにどうするか話し合ったことはあるでしょうか。人生100年時代と言われ、年金2000万円問題など、どうやって生きるかに目が向きがちですが、「死に方」についても考えるべきだと感じるのです。

交通事故や病気は突然訪れます。救命救急医療は「命を助ける」という印象があるかもしれませんが、多くの命が終わりを迎える場でもあるのです。もちろん我々は、大変な状況の患者さんと向き合い、治療をおこなっていきます。それでも精一杯治療しても助けられない命はあり、助かったとしても満足いくような状態にまで回復するとは限らず、本人が何を望んでいるかわからないような状態になることもあります。そんな時我々はみなさんにこう問いかけるのです「これからどうしますか?」。しかし多くの家族が、本人の希望がわからず悩むのです。

「本人の希望に沿いたい」でも、その希望がわからない。実際、日本人は「死」について話し合う機会は少なく、厚生労働省による「平成29年度 人生の最終段階における医療に関する意識調査結果」によれば、医療関係者ですら50-60%、一般の方では40%にも満たず、詳しく話しているのはいずれも5-10%程度でしかないのです。「最期を迎えたい場所、どういう迎え方をしたいか」という調査では、60%前後が自宅を希望し、75-80%が苦しくない死を望んでいますが、厚生労働省の2015年の報告では実に約70%の方が病院で最期を迎えており、「理想の最期」を迎えられていないのが現状です。

「終活」という言葉が広まり、死後や財産分与、葬儀の仕方といった希望が終活ノートに書いてあっても、最期をどう迎えたいか「死に方」については書かれていないことが多いのです。万が一の時、自分の望みや大切にしていること、どんな医療・ケアを希望しているかを自分で考え、家族など信頼する人々と話し合うことを「アドバンス・ケア・プランニング」といいます。大事なことは

- ①繰り返し話し合うこと
- ②医師が加わること
- ③書面に残す（形に残す）こと

が挙げられますが、その結果共有したアドバンスケアプランは自分の代わりに治療やケアについて、困難な決断を家族がする場合には重要な助けになり、自らの人生や家族を「救う」のです。

「できる限り自分の希望に沿った治療方針、最期の迎え方」を目指して、自分だけではなく家族のためにも、自分が元気で判断できるうちにこそ、話し合ってみませんか。

ひとりで悩まず ご相談ください

地域連携センター 緩和ケア認定看護師 山田 史子



もしもあなたが、あなたの大切な人が、がんになったら。

自分の体のこと、これから始まる治療のこと、家族のこと、入院生活のこと、仕事のこと、医療費のこと、退院後の生活や通院のことなど様々なことに不安や気がかりを抱えるのではないのでしょうか？

がんは国民の2人に1人が罹患する病気になりました。がんの治療技術の進歩に伴い、がんになっても治療を続けながらその人らしい生活を送ることができるよう支援体制が整備されています。

＜がん相談支援センター＞

当院は新潟県北の地域がん診療連携拠点病院であり、地域連携センター内には相談支援窓口が設置されています。社会福祉士、看護師を配置し、患者さんやご家族から様々なご相談をお受けしています。病気や治療についての理解を助けるお手伝いをしたり、これからの生活について一緒に考えたり、利用できる制度や社会資源についての情報提供などをさせていただきます。気持ちの整理がつかず何を相談してよいか分からないときも、

お話を聴きながら一緒に整理をしていく支援も行っております。がんまつわる困りごと、心配ごとがあるときはどうぞお気軽に相談窓口においでください。

＜緩和ケア＞

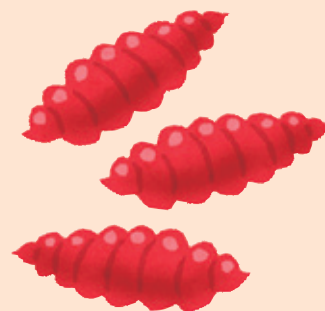
緩和ケアは、がんと診断された時から受けられるケアです。病気そのものや治療に伴うつらい症状、心配ごとや不安などのつらい気持ちを早期から和らげていくことで、生活の質が向上し、抑うつ気分も改善されるといわれています。県立新発田病院には、医師、看護師、薬剤師、医療相談員など多職種からなる緩和ケアチームがあります。入院中の患者さんやご家族の不安、心配ごとをお聴きし、情報を整理しながらともに考えることで、病を持ちながらもその人らしく生きることを支える支援をさせていただきます。外来通院中の方も緩和ケア外来で対応させていただいております。つらい症状やつらい気持ちをひとりで抱え込まず、話してみませんか？緩和ケアを受けたいときは、主治医や看護師にどうぞご相談ください。



ミニ
クイズ



もうすぐお正月！
おせち料理の季節ですね。
それでは右の絵のおせち料理の
名前は何でしょうか？



解答は4ページにあります。



投書箱から

《患者さんの声1》

公費負担者は、窓口でフルネームで呼ばれるが、番号で呼んでほしい。(個人情報なので)

《回答1》

このたびは、窓口でご不快な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。

7番計算窓口にて書類を提出する際、個人名で呼ばないよう申し出いただければ、番号札で対応しておりますので、ご理解願います。

《患者さんの声2》

検査結果の見方が分からない。1Fのカウンターに検査結果の見方・説明が貼ってあれば、皆さんが理解して帰れるのでは(採血室に貼ってあるような貼り紙)。皆さん見方が分からずにいただいて帰っているのでは?

《回答2》

検査結果の見方についてご不便をお掛けし申し訳ございません。ご不明なことがありましたらお気軽にお尋ね下さい。

見方・説明については、お持ち帰りできる「血液検査報告書の見方」小冊子を2階採血室受付に置いています。ご自由にお持ちください。

《患者さんの声3》

久しぶりの入院でそれも不意を突かれたのでショックでしたが、ナースの皆様、明るく話しやすかったです。

ちょうど誕生日と重なり、寂しく思っていたのですが、夕食にフルーツと小さいロールケーキが付いて、とてもうれしかったです。

大変な仕事です。体に気を付けて、これからも患者さんを元気づけてもらいたいです。ありがとうございました。

《回答3》

感謝ねぎらいのお言葉ありがとうございます。突然の入院で不安も強かったこととお察しします。何でも話せる相談しやすい看護師であるよう今後とも努めてまいります。

患者さんの権利

○患者さんならびにご家族は、患者さんの病状、医療の内容につき十分な説明を受けることができます。

そのうえで患者さんは、自らの希望する最適な治療を選択する事ができます。

○患者さんは、プライバシーを守られ、個人として尊ばれる権利があります。

国籍、人種、信条、社会的身分、経済的状态などによる差別を受ける事はありません。

○患者さんは、安全で快適な療養環境の提供を受けることができます。また患者さんならびにご家族は、自らの希望・意見を述べることができ、それを尊重される権利があります。

ミニクイズ ～解答と説明～

答え ちよろぎ

ちよろぎは縁起をかついで「長老木」「長老喜」などと書くこともあり、長寿を願っての食材です。シソ科の植物で塊根の部分がいつも食べているちよろぎです。今年のお正月はちよろぎを食べて長寿を願ってみてはいかがでしょうか。



編集後記

随分と寒くなってまいりました。体調不良を感じている方も多いのではないのでしょうか。バランスの良い食事と十分な休養を心がけ、元気に冬を迎えましょう。

《編集委員》

清野 康夫	三井田 博	浅野 堅策
小滝江里子	米持 賢一	三浦 駿
山岸 知未	金田 園子	輪倉さくら
中坪 繁	源川 恒一	田野 貞